

Rainbow Project 日本語版 会話：旅館編解説

日本語学習者にとっては、大阪方言はそれまでに習っていない日本語なので、別言語と思う人がいるようです。それはどの言語を学んでも、いわゆる共通語以外で話しているのを聞けば同じことを感じます。旅館編では、大阪方言話者が添乗員として出演しています。また、出演した日本人は東京方言ではない共通語を話しています。それに加えて、日本語学習者が話しています。共通語は、東京方言とは若干異なります。そして、いわゆる正しい日本語でなくてもかまわなく、話している人同士が通じればよいというものです。出演者はそれぞれの共通語を話しつつ、チェックインから観光に行くまでの場面設定となっています。

都電編では、日本人フロントと外国人観光客、外国人ツアー客と日本人ツアー客が話しながら、ストーリーが成り立っています。そして、希望・願望の表現があちこちに出てきますので、それは以下で解説しています。ある程度日本語共通語が聞きとれるようになったレベルで、登場人物の人間関係をよみとりながら、その人がどういう意図で話しているかを理解していただければと考えております。

なお、撮影時間の制約により収録できる会話が限られていることをあらかじめご了承ください。

1. チェックインお願いします。(観光客チェックイン)

旅館やホテルに、個人旅行者として訪れてチェックインをする場面です。はじめに言う表現として「チェックイン、お願いします」としました。「チェックインお願いしたいのですが」よりは待遇の度合いが高い表現となります。

外国人観光客は、日本語力に差がある 2 名となっています。フロントがその違いに対応しています。

チェックインの大まかな流れは以下の通りです。

氏名を言う→予約内容の確認→氏名、住所などの記入→パスポートの確認→部屋の説明

順番が違ったり、氏名や住所の記入が省略されたりすることはありますが、大事なのはその旅館であっているか、そこで予約できているかを確認するということです。

2. お世話になります。ツアーリストです。(団体客チェックイン)

ほとんどの団体旅行では、客がそれぞれチェックインをすることはなく、添乗員や現地スタッフなどが一括してチェックインの手続きをとります。氏名や住所などは事前に旅行代理店から旅館に名簿が送られており、客の情報は既に確認済みという前提で進みます。よって、添乗員が旅館にツアー名（団体名、会社名など）を告げ、変更の有無を伝え、鍵の受け渡しが終われば、チェックインはすんでいます。

ここでは、「お願いします」ではなく、「お世話になります」を使っています。サービス業同士（旅行業界、旅館・ホテル業界）の会話という設定ではこの表現が自然です。この表現を個人旅行の観光客が使っても支障はありません。なお、添乗員の大阪方言らしきは「ツーリストです」の文末の伸ばし方、「あとはやっときますんで」と顔なじみのフロントについで言ってしまうところに表れています。

3. 行きたいところはありますか？（自己紹介）

まずは、外国人ツアー客同士で、自己紹介をします。その後「みんな特に行きたいところがありますか？」という会話をきっかけに、それぞれが行きたいところを話しています。浅草の旅館に来ているのに、という場所も含まれています。浅草だとすぐそこにスカイツリーが見えるのに、「東京タワー行きたいです」という希望は、私は嫌いではありません。

「～たい+です」という表現は、「だ」や「である」と置き換えられないから誤りであると考えている人が一定数います。しかし、「うまいですね（駅前編参照）」のように形容詞の後に「ですね」を続けることができますので、「です」は「だ」や「である」よりも前に置ける形が拡大しています。よって、話し言葉としては誤りではありません。ただし、この表現を幼稚だと思っている人は一定数いますので、ご注意ください。

4. 晩ごはんどうする？ 名物を食べよう。

日本人ツアー客の2人が晩ごはんをどこで食べるか話し合い、フロントで場所を聞いて旅館から近かった「どぜう飯田屋」を訪れました。「骨抜き鍋二人前お願いします」のように「お願いします」は、注文を頼む時にも使えます。店員を呼びたい時に「すみませーん」ではなく、「お願いします」と言ってもかまわないのですが、後者は飲食関係で働いている人が使っている感じがします。

なお、どじょう屋のシーンに登場する骨抜き鍋、七色などについては、店の紹介も含めて観光編をご参照ください。

5. 観光したいんですが、おすすめはどこですか？

外国人観光客がフロントで観光先のおすすめを聞いて、どこに行くか決めようという設定です。まずはフロントで「すみません」と声をかけています。「すみません」という言い方を嫌い、「すみません」が正しいという人が一定数いることは事実ですが、この場面はビジネス敬語ではなく客からなので「すみません」は受け入れられます。余談ですが、「すみません」嫌いの人で「タバコじゃないんだから」といった返しを聞いたことがあります。「すみません」と「吸いません」ではアクセントが違うので、センスがないと思っています。

2人の観光客の希望は観光先を知ることですので、ついで「観光したいんですが、おすすめはどこですか？」と言っています。

友人同士の会話ですので、行き先の確認については「どこに行く？」「浅草寺に行ってみ

たい」とくだけた感じで会話しています。この場面では、都内で会話するのであれば「～に」より「～へ」の方が自然でしょう。これは方言差によるもので、東京方言では「～へ」、大阪方言では「～に」を好む傾向があります。もちろん、この場面で「～に」を使っても誤りではありません。

なお、フロントのセリフが長すぎて、途中で自身の言葉にアレンジしてしまった結果、「ご散策」という言い方に違和感を覚えております。

6. 私たちも行きたいんですが、場所がよく分からなくて。

外国人ツアー客がどこに行くかを相談しており、出がけにロビーにいた日本人ツアー客に声をかけます。そこで、日本人ツアー客が花やしきに行こうとしていることが分かり、外国人ツアー客はラッキーだったという設定です。「私たちも行きたいんですが、場所がよく分からなくて。」と言った後、「じゃあ、一緒に行きませんか」と言われ、一緒に行くことになりました。

なお、旅館を出る前の「じゃ、行きましょ」は明るく楽しく元気よく教材ではありえませんが、この客のキャラは旅館編では一貫しています。「お世話になります。ツーリストです。」をもう一度ご確認ください。そして、花やしきでの変貌ぶりもご確認ください。